

第1回熊本市景観審議会景観計画改定専門部会（要旨）

日 時 令和4年(2022年)11月29日（火）午前 9時00分から11時30分

場 所 熊本市役所 本庁舎 9階会議室

出席者

(委 員) 星野部会長、田中委員、原田委員、小島委員、岩橋委員、吉村委員、森岡委員

(事務局) 都市建設局長 井芹和哉

都市デザイン課 栗田課長、松永課長補佐、高城主査、加藤参事、木村参事、村上主任技師

【議題】

[審議事項]

- ①改定の方針とポイント及び改定の構成内容について
- ②市民アンケート（案）について
- ③市民ワークショップ（案）について

[報告事項]

- ①今後のスケジュールについて
- ②講演会等の開催について（案）

【概要】

[審議事項①]

改定の方針とポイント及び改定の構成内容について

事務局から熊本市景観計画改定の方針とポイント及び改定の構成内容についての説明後、審議を行った。

■景観計画改定専門部会での意見のまとめは以下のとおり。

- ・視点場の検証については、熊本城域に限らずの新たな視点場の検討も加えていただきたい。
- ・立地適正化計画の地域拠点とも連携させながら、身近なふるさとの景観についても盛り込んでいただきたい。
- ・重点地域に特化するのではなく、市域全体で広く景観施策を実施するために市民との協働・意識啓発に力を入れていただきたい。
- ・緑については、関連計画を単純に受け入れるだけでなく、景観としての緑の考え方や方針を議論しながら、関係課と調整し、計画に盛り込んでいただきたい。

■主な質疑応答については、次のとおり。

(委 員) ④視点場の検証は、「熊本城域などの景観保全を前提とした視点場の…」とし、「新たなる視点場の検証も行う」という内容を加えることも検討してもらいたい。

(事務局) 視点場についてはアンケート等で把握し、その結果も踏まえて、検討したい。

- (委員) 熊本城の修復の姿も日常の景観になってきている。長く続く復興期間の景観もきちんと位置付けられると良い。
- (委員) 東西南北中央それぞれに特色があるので、住んでいる地区のふるさとの視点場などをつくっても良いのではないか。
- (委員) 重点地域だけでなく、市民生活の大事な景観についても重ねていく方法等もあるので、目指す将来像の設定を専門部会の場で議論して決めていくべき。
- (委員) 立地適正化計画の地域拠点については、景観計画でどう位置づけるのか。
- (事務局) 地域拠点の景観形成については、行政がコントロールするよりも、地域住民が主体的にルールをつくることを想定している。詳細はこれから検討する。
- (部会長) ふるさとの身近な景観なども関連するが、地域拠点について上手く景観計画に盛り込んで頂きたい。序章7の景観全体像や、第2章の1、2などをしっかり見直していくことが大事。
- (委員) 大規模建築物のコントロールだけでなく、市民が暮らしの景観を考えられるよう普及啓発(例えばフォトコンテスト等)と合わせてやっていくことを計画に記載し、共有していく必要がある。
- (部会長) 具体的には8章の「市民との協働」や、コラムを掲載するなど、市民に伝わるような工夫が必要である。
- (事務局) 8章やコラムの充実を図るようにする。
- (委員) 市民の関心事として街路樹の伐採、緑の保全がある。ポイント②で関連計画との整合で「緑の基本計画」、序章4の景観特性で、「緑関連計画の反映」と記載があるが、緑についてどう考えるか。関連施策をそのまま単に受け止めるより、もう少し街中の緑について提言、発信して調整していくべきであり、方針を打ち出していくければ理想的である。
- (事務局) 関係部署と調整し掲載していく。

[審議事項②]

市民アンケート(案)について

事務局から市民アンケート(案)の内容についての説明後、審議を行った。

■景観計画改定専門部会での意見のまとめは以下のとおり。

- ・一般市民が理解できるように用語の説明を分かりやすく提示していただきたい。
- ・問10で、選択肢の順番を他の設問に揃えること。また、選択肢に「わからない」を入れていただきたい。
- ・過去と現在の比較写真について、回答者が回答しやすいよう、写真の印象(明度等)を揃えるよう工夫していただきたい。
- ・問11で、熊本城以外の視点場についても聞いていただきたい。また、自慢したい景観だけで

なく、改善したい景観も聞いていただきたい。

■主な質疑応答については、次のとおり。

(委員) 問8の「屋外広告物」、問10の「夜間照明」、問18の「視点場」はわかりづらいので解説が必要である。

(委員) 問19「一般地区、特別地区」の違いもわからないので説明が必要である。

(事務局) 用語の解説を入れるようにする。

(委員) 問10は、選択肢に「わからない」があった方がよい。選択肢⑤を「どちらともいえない・わからない」にしても良い。

(委員) 問10は、「感じない」から「感じる」となっているが、他はポジティブからネガティブに移っている。他の設問と揃えるべき。また、問10の自由記述欄は、どう感じたとしても理由を書いてもらうのはどうか。

(事務局) ご指摘踏まえて修正する。

(事務局) 古い写真は明るくして現在と明度を揃えるなど、写真そのものの印象を整えた方が良い。

(事務局) ご指摘踏まえて修正する。

(委員) 問18、一番上の項目に「熊本市の重要な景観資源について」とあるので、熊本城以外の重要な視点場を入れるべきではないか。

(部会長) 前半の議論を踏まえても、回答者それぞれの大切な場所を聞くような別の設問を設けるべきか。

(委員) 良い場所だけでなく改善すべき場所も聞いた方がよいのではないか。

(事務局) 問11に熊本城以外の重要な視点場や、改善したい景観の場所を聞く設問を加えることで対応する。

(委員) アンケートのボリュームが大きいので、最後まで回答したくなるように、可能であれば何かプレゼントを検討してもらえるとよい。

[審議事項③]

市民ワークショップ（案）について

事務局から市民ワークショップ（案）の内容についての説明後、審議を行った。

■景観計画改定専門部会での意見のまとめは以下のとおり。

- ・参加者に負荷のかからない宿題を出して、しっかり意見交換をしていただきたい。
- ・20名程度の参加者はできるだけ若い人が含まれるよう募集の工夫をしていただきたい。
- ・現地視察のタイミングを検討していただきたい。

■主な質疑応答については、次のとおり。

(委員) 良い景観・改善すべき景観について事前に宿題を出すとの事だが、第1回の前に告知をしっかり行うべきである。

(部会長) 宿題を含めてより積極的に意見を出してもらえるような環境づくりをしてあげることが大切である。

(事務局) 承知しました。

(委員) ラインなどSNSを使って若い人の意見を吸い上げられる機会を設けられるといい。

(部会長) 若い人で、まちで活動されている方、まちで働いている人が参加してくれるとよい。

(事務局) 承知しました。

(委員) 第3回目の当日に現地視察とあるが、早めに実施した方が良いのではないか。色々な熊本城域の見え方や考え方広がるのではないかと思う。

(事務局) 最初から熊本城に限定しないほうがよいと考えた。

(部会長) 事務局としては、2回目の特定テーマの抽出の際にお城に関することが出てくるのが理想か。1回目の好きな景観の所で出てくる可能性もある。会議だけではなく、自由参加の現地視察が毎回あっても良いと思う。

(事務局) ご指摘踏まえて、現地視察のタイミングや回数を再検討する。

[報告事項]

①今後のスケジュールについて

事務局から今後のスケジュールについて報告を行った。

■主な質疑については次のとおり。

(委員) 市民意見を反映させた骨子はいつの予定か。

(事務局) 年度明けになる。

(委員) 3月下旬に景観審議会があるが、ここでいう骨子は中間報告になるのか？

(事務局) その通りである。

(委員) フォトコンテストの方法は決まっているのか？

(事務局) 12月中旬から下旬にかけて配られる市政だより1月号で、案内を載せ、2次元コードから募集要綱を読み込めるようにする。インスタグラムへアップした写真にハッシュタグ付けると応募できる。受賞作品を8作品選び、歴まちにちなんだ特産物をプレゼントする予定。

(委員) 若い人が魅力を感じる商品があると良い。

(部会長) フォトコンテストは、定期的に開催することで、次の景観計画改定のよい資料になるだろう。また、フォトコンテストについても景観計画に入れるのがよいだろう。

(事務局) 今回、実験的に行っている。1月の景観審議会専門委員との景観調整の場で、応募作

品から受賞作品を決めていただきたい。

②講演会の開催について

事務局から講演会の開催について報告を行い、特段意見はなかった。

以上